

実践事例2 部活の指導体制と行事の見直しで執務時間を

確保【日立市立台原中学校】

平成24年度モデル校

□実践のためのポイント

■ 部活動の質を確保しつつ、負担軽減で生徒と向き合う時間を作り出す

- ・「水曜を副顧問の日」・「木曜を正顧問の日」とし、空いた時間を生徒と向き合う時間（教材研究やノート指導等）に！
- ・生徒主体の練習メニューを考え、「副顧問の日」の負担感を和らげる

■ 当たり前を見直すことで教育活動の充実と負担軽減

- ・体育祭を4月に実施→2学期に研修時間（20時間）を集中的に確保（授業の共同立案，研究協議を集中実施）
⇒ 若手のOJTに効果絶大）
- ・行事の実施計画の改善
→教員も生徒も時間と作業の効率化を実現（計画書に負担軽減コーナーを設置し効率的な運営を常に意識）

生徒と向き合う時間

75分／週

【勤務時間中に確保】

- ・テスト採点や教材研究の時間が確保できた。
- ・生徒と二者面談する時間がとれてよかった。

- ・目に見える形にしたことで効率化を意識できた。
- ・前例踏襲がなくなった。
- ・一体感があり，改善の努力が報われてやる気が出た。

実践事例3 多忙感の解消を図るための学校運営の推進

【美浦村立美浦中学校】

平成25年度モデル校

□実践のためのポイント

■ 諸会議の効率的運営①〔時間の効率的運用：放課後に会議を持たない〕

- ・定時開催，定時終了〔1回の会議は原則1時間，開始・終了時刻・協議時間は事前に設定〕

- ・継続的に行う会議，重要な会議の定例化

〔運営委員会：1時間目⇒主任会で調整：2時間目，教育相談部会，生徒指導部会の週時程への位置づけ〕

■ 諸会議の効率的運営②〔人材育成と機能的集団づくり〕

- ・省令主任，副主任，学年中堅職員を各種会議の中核に

〔ミドルリーダーとしての自覚&人材育成に⇒参画意識の高揚に
⇒生徒の活動に反映〕

- ・ミドルリーダーから各学年へ

〔組織としての共通理解・共通実践に〕

- ・会議後のまとめはその日の内に，が基本
〔全職員が素早く情報を共有〕

会議への負担感 52%⇒8%
職員会議所要時間 -99分

◆これまでの取組の成果から

- ・会議の効率化.....⑰ ■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■
- ・部活動運営の見直し・⑭ ■■■■■■■■■■■■■■■■
- ・校務の情報化.....⑭ ■■■■■■■■■■■■■■■■
- ・教職員の意識改革...⑥ ■■■■■■
- ・地域との連携・協働...⑥ ■■■■■■
- ・校務マニュアル作成...⑤ ■■■■■■
- ・環境の整備.....⑤ ■■■■■■
- ・教員の分掌見直し...④ ■■■■
- ・定時退勤日の実施...③ ■■■
- ・日課の工夫.....③ ■■■
- ・チームを生かした
取組の工夫② ■■
- ・学校行事の見直し...② ■■
- ・事務機能の強化.....② ■■
- ・ミドルリーダーの育成・① ■

軽量化・効率化
 ~成果を量で示す~

義務教育課内の組織再編の中で (平成26年度)

市町村教育推進室 (学校運営支援担当)

- 市町村合併
- 学校統廃合
- 業務改善
- コミュニティ・スクール
- 学校事務の共同実施
- 学校評価



人事担当グループ (学校マネジメント担当)

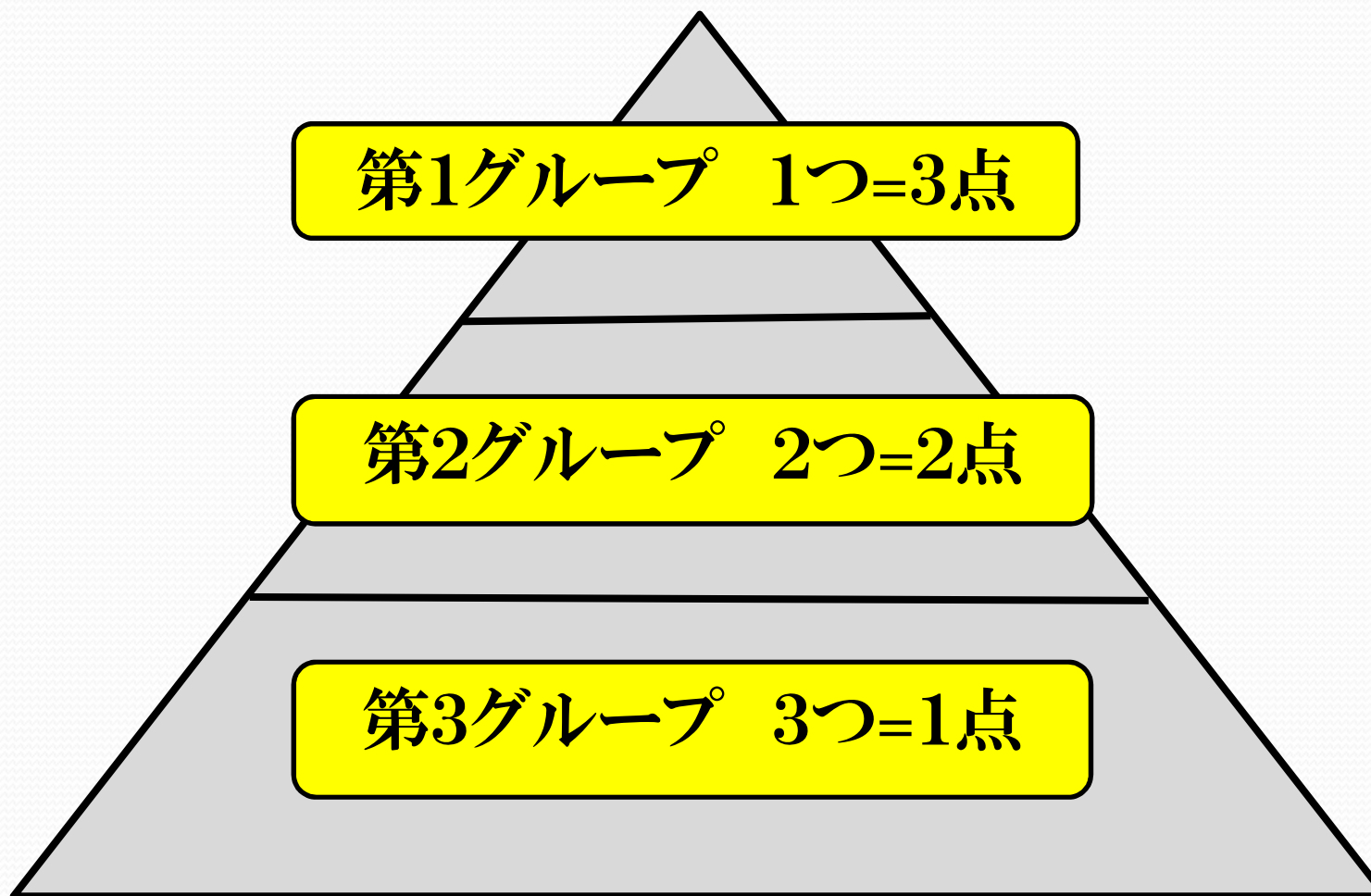
- 業務改善
- コミュニティ・スクール
- 学校事務の共同実施
- 学校評価
- 人事評価(教職員)
- 学校マネジメント研修
- 事務職員の人事と研修

◆これまでの取組の課題から
 (1)「負担」と「負担感」(モデル校の実践から)

仕事の内容	仕事の割合 (選択度)	負担感 (選択度)	充実感 (選択度)
教材研究	26	0	48
担当の校務 分掌	20	1	22
保護者対応	4	19	2
部活動(休日)	15	24	17
部活動(平日)	20	8	17

「負担」と「負担感」

～モデル校による選択度調査～



◆これまでの取組の課題から
 (1)「負担」と「負担感」(モデル校の実践から)

仕事の内容	仕事の割合 (選択度)	負担感 (選択度)	充実感 (選択度)
教材研究	26	0	48
担当の校務 分掌	20	1	22
保護者対応	4	19	2
部活動(休日)	15	24	17
部活動(平日)	20	8	17

◆これまでの取組の課題から (2) 効率化に対する認識

【会議の効率化に対する認識】

* 20歳代と50歳代の職員構成の学校マネジメント

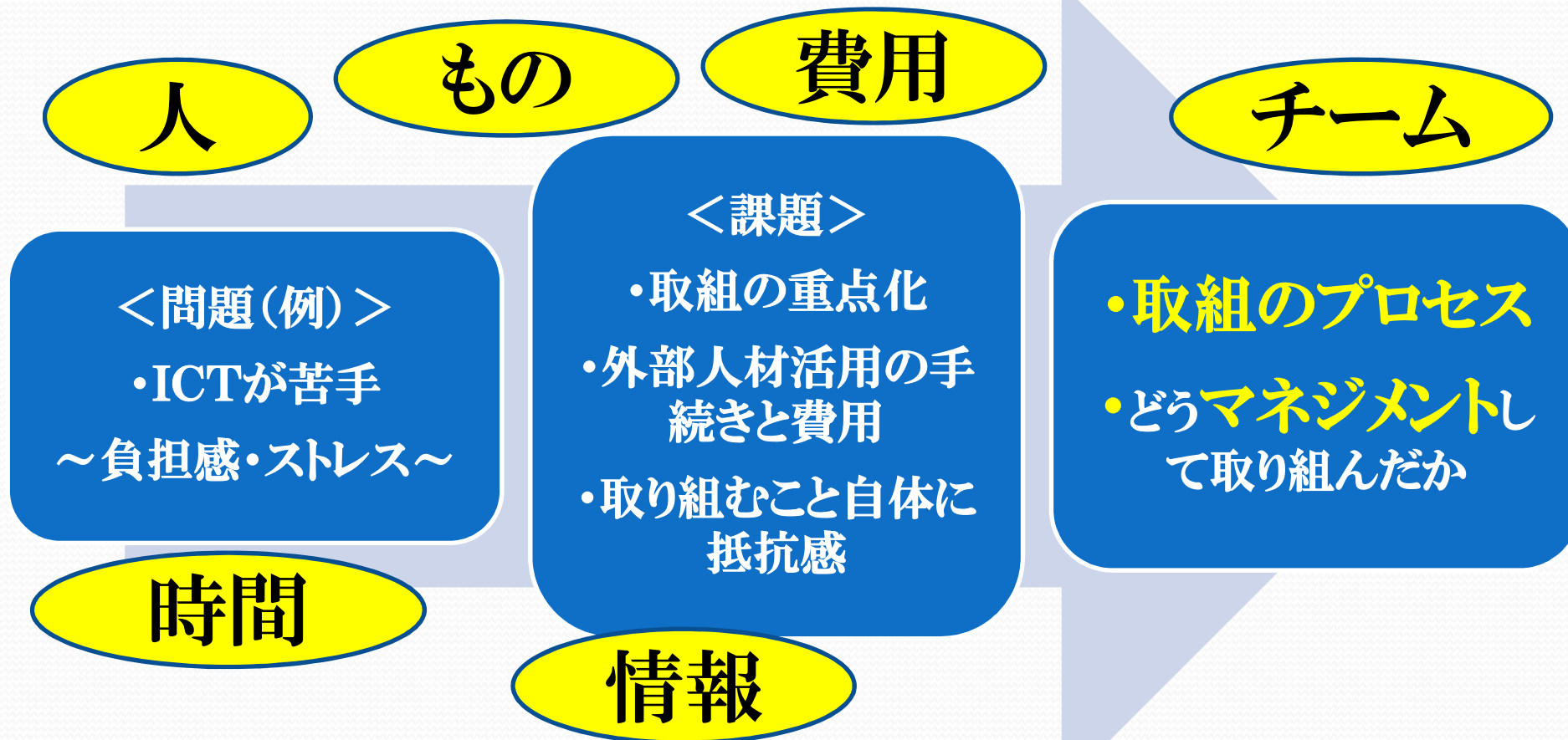
- 職員会議は、「**時間短縮**」という発想ではなく
「**意思形成の場**」としての位置づけが必要
- 会議運営の在り方
若手…力をつけていくための会議
ベテラン…若手を育てる場



OJT
研修

Ⅲ 学校マネジメント力の強化による学校改善 ～自律的・組織的な学校運営体制の構築～

◆ マネジメントプロセスの重視



〈学校マネジメント構想図〉

外部要因

- 協力的な保護者が多い。各地域の行事に前向きに取り組んでいる。
- PTA役員を中心として学校に協力的である。

- 1 魅力ある授業の構築と確かな学力の定着
- 2 成就感・達成感が味わえる生徒主体の行事運営
- 3 一人一人の子どもに丁寧に关わる生徒指導と豊かな心を育む体験活動の充実
- 4 心を耕し体を鍛える部活動の充実
- 5 保護者や地域に信頼される学校づくり

内部要因

- 非常に若い教師集団である。
 - ・ICTが得意な教師が多数いる。
 - ・同僚性があり、吸収力がある。
- 職員室内無線LANが整備されている。
- ミドルリーダー世代がない。
 - ・学年副主任の参画意識強化が必要である。

めざす学校像

子どもと教師が ともに手応えを感じ合い 高め合える学校

業務改善計画

- (1) 職員会議の効率化
- (2) 保護者対応、PTA活動参加のための共通理解と負担軽減
- (3) 知・徳・体のプロジェクトによる、校務分掌の見直しとグループ目標達成のための具体策の推進
- (4) 部活動の指導の負担軽減

強みを生かし
弱みを克服

- 学校サーバーの再構築による学校情報の共有化
- 一人に頼らない校務分掌システム
 - ・学校HPの全員作成(教員間の学び合い)
 - ・部活、校務分掌の2人制
- 県指定事業、町指定研究等の有効活用
- 教員の専門性を高め、長所を生かした活躍場面の設定

支援部分を生かし
阻害部分を克服

- 積極的な情報発信
 - ・学校だより、学年だより、学級だより、保健だより、学校ホームページ
 - ・地区懇談会の開催
- PTA役員会、合同委員会によるPTA行事関係の見直し
- 保護者の学校ボランティア機会の設定
- 町教育委員会との連携強化

3つのプロジェクト

知のプロジェクト

分かる授業を実践し、確かな学力の定着と学びをつなげる学習の習慣化を図る。

徳のプロジェクト

目標達成や夢実現に向けて努力し、意欲的に生活できる態度の育成を図る。

体のプロジェクト

基本的な生活習慣を身につけながら、丈夫な体と強い心の育成を図る。

<行方市立玉造中学校の実践>

研究課題

「A 学校評価の充実・強化に向けた実践研究」



○ 校務の効率化に係る取組

教職員の意識改革と勤務意欲の向上を図る
学校組織マネジメント

1 基本的な考え方

- 本校の課題(昨年度の反省より)
 - ・個業型の教職員集団
 - ・生徒指導にかかる時間
 - ・生徒, 保護者, 教職員の意識のずれ

徒労感

徒労感から達成感・充実感へ

2 本年度の取り組み

学校評価の分析(課題を探る)

重点目標の設定(絞り込み)

学校課題の共有化(意思の一致)

教職員の力を結集(協働体制確立)

課題解決・取組(達成感)